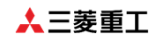


2024年度第3四半期決算説明資料

2025年2月4日

三菱重工業株式会社

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.



皆さん、こんにちは。CFOの小澤です。

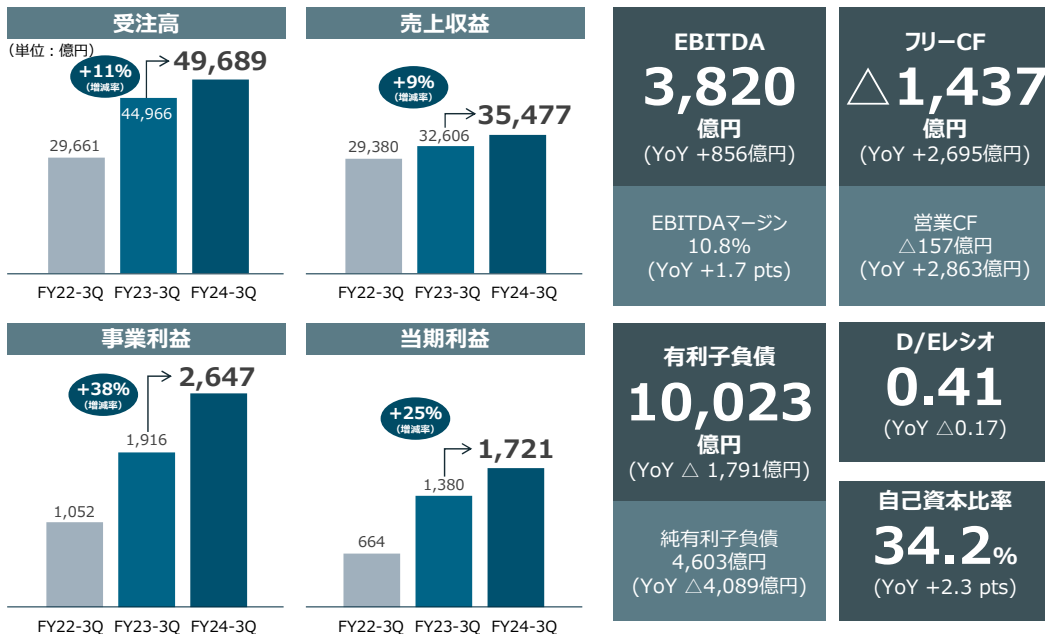
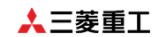
それでは、第3四半期決算の概要について説明します。

1. 決算のポイント	3-5
2. 2024年度第3四半期決算実績	6-16
<ul style="list-style-type: none">・ 連結経営成績サマリー・ 連結財政状態、キャッシュ・フロー・ 事業利益増減分析・ セグメント情報	
3. 2024年度業績見通し	17-20
<ul style="list-style-type: none">・ 業績見通しサマリー・ セグメント情報	
4. 補足資料	21-24
<ul style="list-style-type: none">・ 参考データ	

資料の構成は、目次に記載のとおりです。

1. 決算のポイント

2024年度第3四半期決算実績



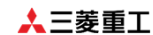
© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

4

初めに、決算実績の全体概要について説明します。

このページでは、主要な財務指標の実績を記載しています。

2024年度第3四半期決算実績ハイライト



- **受注高：49,689億円**（前年同期比：+4,722億円）
エナジー、プラント・インフラの2セグメントが大きく増加。
エナジーではGTCCや航空エンジン、プラント・インフラでは製鉄機械が受注を伸ばした
- **売上収益：35,477億円**（前年同期比：+2,870億円）
全セグメントにおいて前年同期比増収。
特に防衛・宇宙が、航空機・飛昇体を中心に売上収益を大きく伸ばした
- **事業利益：2,647億円**（前年同期比：+731億円）
エナジー、プラント・インフラ、航空・防衛・宇宙の3セグメントが前年同期比増益。
売上増・利益率改善、為替円安影響、一時費用のリバウンド等が寄与し、事業利益は前年同期比38%増の2,647億円となった
- **当期利益：1,721億円**（前年同期比：+340億円）
事業利益の増加にともない前年同期比25%増の1,721億円となった

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

5

このページには、主要な財務指標の実績に関する要旨を記載しています。

当四半期は、第2四半期に引き続き総じて計画通り順調に推移しました。

受注高は、22年度から23年度にかけて大きく増加しましたが、当期は更にそれを上回りました。

23年度の受注増を牽引した防衛関係は減少したものの、GTCCや航空エンジン、製鉄機械などが大きく伸びました。これから年度末にかけて更なる受注が見込まれることもあり、年間見通しについて、従前の6兆円から6兆4,000億円へと引き上げました。

売上収益は全セグメントにおいて増収、事業利益・当期利益とも前年同期から増益となりました。ここまでの進捗を踏まえ、今回、各項目の年間見直しも見直しています。

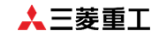
受注高・売上収益・各利益項目は、いずれも第3四半期としては過去最高値です。

2. 2024年度第3四半期決算実績

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

このページ以降は、決算実績をもう少し詳細に記載しています。

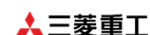
連結経営成績サマリー



(単位：億円)	FY2023-3Q (利益率)	FY2024-3Q (利益率)	増減 (利益率)	(増減率)
受注高	44,966	49,689	+4,722	(+10.5%)
売上収益	32,606	35,477	+2,870	(+8.8%)
事業利益	1,916 (5.9%)	2,647 (7.5%)	+731 (+1.6 pts)	(+38.2%)
親会社の所有者に 帰属する当期利益	1,380 (4.2%)	1,721 (4.9%)	+340 (+0.7 pts)	(+24.7%)
EBITDA	2,964 (9.1%)	3,820 (10.8%)	+856 (+1.7 pts)	(+28.9%)
フリー・キャッシュ・フロー	△4,133	△1,437	+2,695	

このページの数表は繰り返しとなりますので、説明は省略します。

連結財政状態、キャッシュ・フロー



連結財政状態 (単位：億円)	FY23末	FY24-3Q末	増減
売上債権（営業債権及び契約資産）	16,924	18,646	+1,722
棚卸資産	9,745	11,762	+2,016
その他流動資産	7,529	9,712	+2,183
（うち現金及び現金同等物）	(4,312)	(5,420)	(+1,107)
固定資産	11,747	12,040	+293
投資等	16,615	16,089	△526
資産合計	62,562	68,252	+5,689
営業債務	9,588	8,472	△1,116
契約負債	10,951	13,101	+2,149
その他	11,125	11,983	+857
有利子負債	7,289	10,023	+2,733
資本	23,606	24,671	+1,065
（うち親会社の所有者に帰属する持分）	(22,446)	(23,365)	(919)
負債及び資本合計	62,562	68,252	+5,689
キャッシュ・フロー (単位：億円)	FY23-3Q	FY24-3Q	増減
営業キャッシュ・フロー	△3,021	△157	+2,863
投資キャッシュ・フロー	△1,111	△1,280	△168
フリー・キャッシュ・フロー	△4,133	△1,437	+2,695

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

8

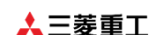
このページには、バランスシートおよびキャッシュ・フローを記載しています。

総資産は、23年度末から5,689億円増加の6兆8,252億円となりました。12月末の為替レートが3月末対比で円安に振れていたことから、外貨建て資産の換算影響が900億円弱増加しており、その影響を除くと、実質的には約4,800億円の増加となります。

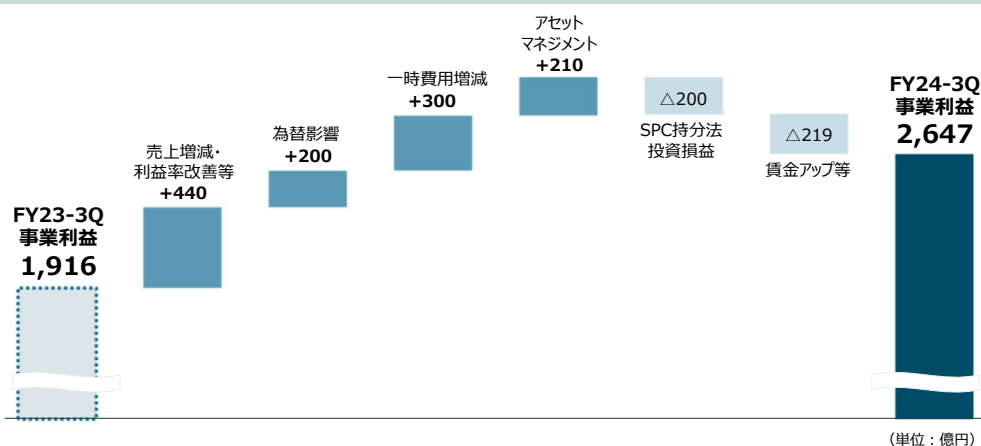
増加の内訳は、以下は為替影響を除外した数字で、売上債権が約1,500億円、棚卸資産が約1,800億円、現預金が約1,000億円となりました。売上債権および棚卸資産の増加は、当社の例年の動きであり、事業規模が拡大局面にあることも踏まえ、概ね想定どおりに推移していると評価しています。

キャッシュ・フローについて、営業キャッシュ・フローが利益の増加に加え、運転資金の増加幅を前年同期比で抑制できたこともあり大きく改善しました。年間計画対比でも順調に推移していることから、フリー・キャッシュ・フローの年間見通しについて、従前のマイナス1,000億円からゼロへと見直しています。

事業利益増減分析



- エナジー、防衛・宇宙を中心とした売上増加や、利益率改善で増益
- 前年度に計上した航空エンジン事業及び火力事業海外工事案件での一時費用のリバウンドに加え、横浜本牧工場の一部土地売却も増益に貢献
- 勿来/広野 発電事業会社(SPC)において、これまでのプラント稼働率低下にともなう損失を計上



© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

9

このページでは、前年同期対比での事業利益の増減要因を説明しています。

一番左端の棒グラフ23年度第3四半期累計の事業利益は1,916億円でした。

当期は賃上げ影響等による費用増という減益要因はあったものの、その他の項目で着実にプラスサイドを積み上げることが出来ました。各事業での売上増加、プロダクトミックス・利益率改善の効果などに加え、期中平均で為替が円安傾向で推移したこともあり、当期の事業利益は2,647億円となりました。

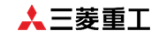
なお、今回新たに「持分法投資損益」という項目を表示していますが、これはスライド15ページに記載の発電事業会社において第3四半期に計上された一時発生費用の負担分です。

ここで一時費用の増減につき少し補足いたします。

昨年度のこのタイミングでは、Pratt & Whitney PW1100G航空エンジンのほか、海外プロジェクトでの突発クレーム対応などで、約400億円の一時費用を計上していました。

今年度は第2四半期までは大きな損失計上はありませんでしたが、残念ながら第3四半期において一部の海外プロジェクトにおいて追加費用の発生が見込まれたことから、約100億円の損失を計上しています。昨年度の400億円のリバースと当年度計上の100億円との差がこのグラフの300億円となります。

決算実績 セグメント別内訳



	受注高			売上収益			事業利益		
	^(※1) FY23 3Q	FY24 3Q	増減	^(※1) FY23 3Q	FY24 3Q	増減	^(※1) FY23 3Q	FY24 3Q	増減
(単位：億円)									
エネルギー	17,383	19,670	+2,287	11,974	12,788	+814	866	1,545	+679
プラント・インフラ	5,937	8,135	+2,198	5,857	5,864	+6	270	397	+126
物流・冷熱・ ドライブシステム	9,686	9,917	+231	9,562	9,654	+92	588	423	△165
航空・防衛・宇宙	12,041	11,820	△220	5,269	6,896	+1,627	536	697	+161
その他及び 全社又は消去	△81	144	+226	△56	274	+330	△345	△415	△70
合計	44,966	49,689	+4,722	32,606	35,477	+2,870	1,916	2,647	+731

(※1) FY23実績は、2024年4月1日のGXセグメント新設の組織再編の影響を2023年度に遡り反映した金額を記載

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

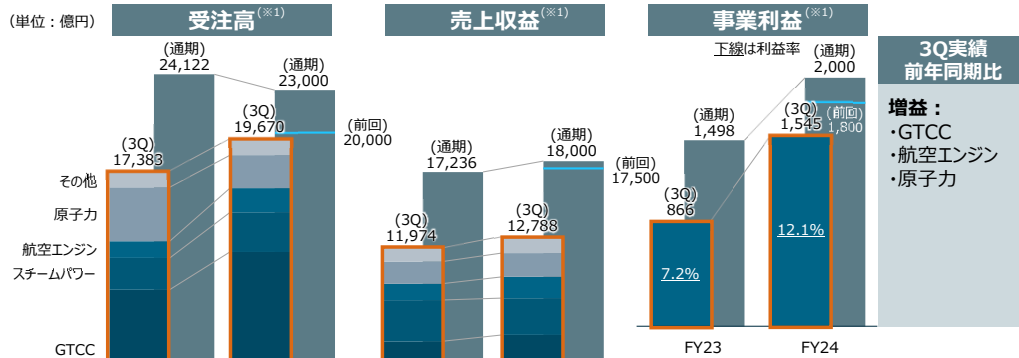
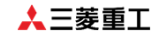
10

このページには、セグメント別の受注高、売上収益、事業利益をまとめて表示しています。

次のページ以降で、セグメント別に説明します。

なお、今年4月のGXセグメント設立の組織変更により、公表セグメントの入り繰りが生じていますが、これについては23年度第1四半期の数字を遡り修正して表示しています。

セグメント別決算実績 <エネルギー>



3Q実績
前年同期比

増益：
・GTCC
・航空エンジン
・原子力

(※1) FY23実績は、2024年4月1日のGXセグメント新設の組織再編の影響を2023年度に遡り反映した金額を記載

主な事業	受注高		売上収益	
	FY23-3Q	FY24-3Q	FY23-3Q	FY24-3Q
GTCC	9,012	11,674	5,373	5,829
スチームパワー	2,241	2,790	2,909	2,587
航空エンジン	1,175	1,709	1,148	1,508
原子力	3,801	2,318	1,564	1,673

決算実績・通期見通しのポイント

- GTCCは主に米州で受注が大幅に増加。売上増に加え、採算改善等により増益
- 航空エンジンは売上増に加え前年同期に計上した一時費用のリバウンドにより増益
- 原子力は堅調に推移
- 受注、売上、事業利益について、セグメントの進捗状況を踏まえて、通期見通しを上方修正

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

11

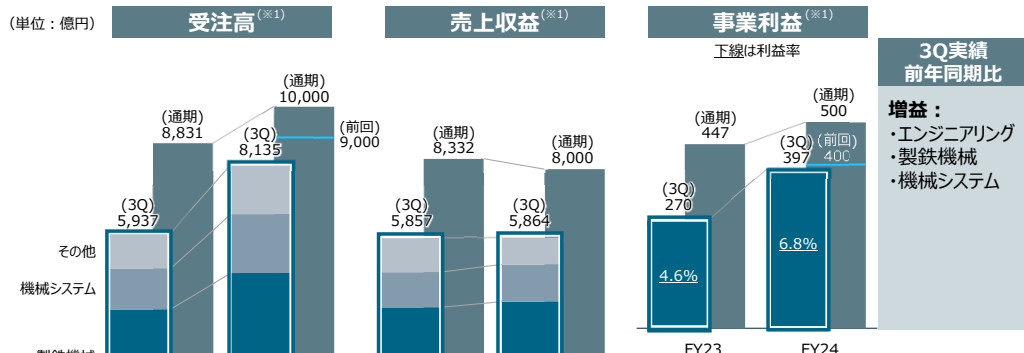
このページには、エネルギーの状況を記載しています。

受注高・売上収益・事業利益ともに前年同期比で増加し、年度見通しに対しても高い進捗となりました。

特にGTCCはマーケットが活況なこともあり、好調な受注が続いています。

各製品とも計画に比して順調に推移しており、ここまでの進捗を踏まえ、受注高・売上収益・事業利益それぞれにつき、年間見通しを上方修正しています。

セグメント別決算実績 <プラント・インフラ>



(※1) FY23実績は、2024年4月1日のGXセグメント新設の組織再編の影響を2023年度に遡り反映した金額を記載

主な事業	受注高		売上収益	
	FY23-3Q	FY24-3Q	FY23-3Q	FY24-3Q
エンジニアリング	767	1,138	908	955
製鉄機械	2,717	3,513	2,694	2,828
機械システム	1,305	1,888	1,129	1,194

決算実績・通期見通しのポイント

- 製鉄機械を中心に各事業で受注が増加
- エンジニアリングは売上増に加え、採算改善等により増益
- 製鉄機械は為替円安に加え、採算改善等により増収増益
- 機械システムは売上増にともない増益
- 受注、事業利益について、セグメントの進捗状況を踏まえて、通期見通しを上方修正

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

12

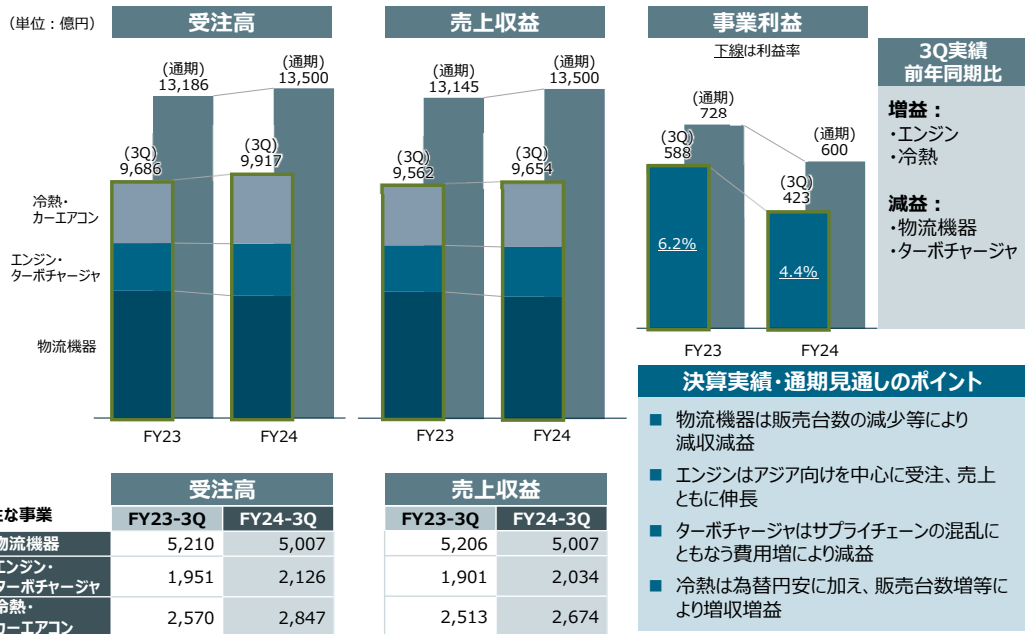
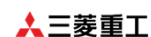
このページには、プラント・インフラの状況を記載しています。

このセグメントも受注高・売上収益・事業利益とも前年同期比で増加、年度見通しに対して順調な進捗となりました。

受注高は、製鉄機械・環境設備・機械システムにおいて大型受注があったことが寄与しました。特に製鉄機械の受注は当初想定を上回る水準で推移しています。

このような状況を踏まえ、年間見通しについて、受注高を1,000億円、事業利益を100億円上方修正しています。

セグメント別決算実績 <物流・冷熱・ドライブシステム>



© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

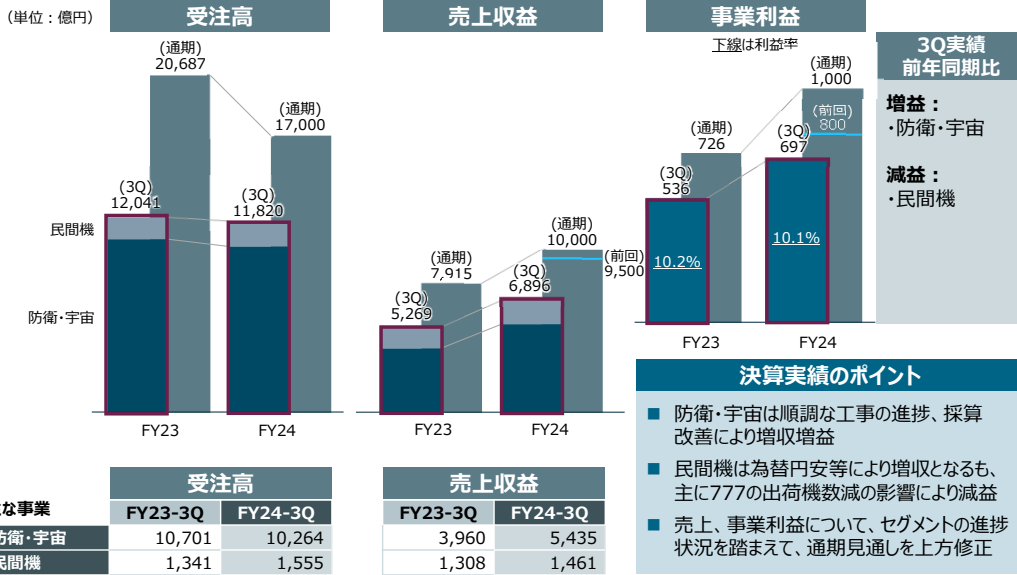
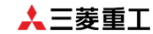
13

このページには、物流・冷熱・ドライブシステムの状況を記載しています。

受注高・売上収益は、セグメント全体で前年同期をやや上回っていますが、為替円安の影響を考慮すると実質的には減収です。

ターボチャージャは、サプライヤー起因で一部に生産混乱が生じた影響で減益となりました。物流機器は主に海外での販売台数減少等により減収減益となりました。

セグメント別決算実績 <航空・防衛・宇宙>



© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

14

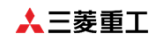
このページには、航空・防衛・宇宙の状況を記載しています。

受注高は、前年同期に防衛関連の大型案件を複数受注した反動で減少していますが、それでも従前と比較すれば高水準であり、年度見通しに対しても順調な進捗を見せています。

売上収益は、積みあがった受注残の消化が順調に進んでおり、計画対比で上振れしています。事業利益は、増収効果に加え、為替円安の影響もあり増益を継続しています。

ここまでの進捗を踏まえ、売上収益を500億円、事業利益を200億円上方修正しました。

勿来/広野 発電事業会社について



- 当社が出資する勿来/広野 発電事業会社(SPC)*の一部他社持分を2024年12月に取得

<ねらい>

- ✓ 意思決定のスピードを上げ、迅速な経営判断・柔軟なSPC運営を実現
- ✓ プラントメーカー・発電事業者として、電力の安定供給・福島復興にさらに貢献

<財務影響>

- ✓ 今回決算では、これまでの稼働率低下にともなうSPC持分法損失を計上(△200億円)
- ✓ 新体制のもと、信頼性向上により一層取り組むことで、今後は安定的経営を実現する

▼ 持分比率変更

持分取得前	持分取得後
三菱重工業	三菱重工業
A社	
B社	
東京電力ホールディングス	東京電力ホールディングス
常磐共同火力(※)	常磐共同火力(※)

※勿来のみ



*勿来/広野 発電事業は福島復興の一環として計画されたプロジェクトで、2021年度に営業運転を開始。
当社は、プラントを建設すると共に、SPCに40%出資し、発電事業者としてプロジェクトに参画していた

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

15

スライド15では、第3四半期におけるトピックを一つ紹介しています。福島復興プロジェクトとして取り組んでいる勿来・広野の発電事業についてです。

この二つのプロジェクトにおいて、当社は発電プラントを建設するとともに、発電事業を運営するSPCにも40%を出資してきましたが、この度、SPCの運営、プラント運用の最適化を進めるため、一部の他社持分を買い取ることにしました。

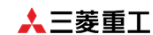
このプラント自体は大型のIGCCという新技術にトライしているもので、これまで複数のトラブルに直面しましたが、今般、一連の改修工事が完了し、改善効果が確認されています。当社がプロジェクト全体への関与を強めることで、更なるプラントの信頼性向上を図ることも出来ると考えています。

Intentionally left blank

3. 2024年度業績見通し

本資料に記載している業績見通し等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したもので、リスクや不確実性を含んでおり、また、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。従いまして、この業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。実際の業績は、様々な重要な要素により、この業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おください。実際の業績に影響を与える要素には、当社グループの事業領域をとりまく経済情勢、対ドルをはじめとする円の為替レート、日本の株式相場などが含まれます。

業績見通しハイライト



■ 受注高：64,000億円（前回見通し比：+4,000億円）

	前回見通し	今回見通し	増減	上方修正した主な事業
エンジン	20,000億円	23,000億円	+3,000億円	・ GTCC
プラント・インフラ	9,000億円	10,000億円	+1,000億円	・ 製鉄機械

■ 売上高：50,000億円（前回見通し比：+1,000億円）

	前回見通し	今回見通し	増減	上方修正した主な事業
エンジン	17,500億円	18,000億円	+500億円	・ GTCC
航空・防衛・宇宙	9,500億円	10,000億円	+500億円	・ 防衛・宇宙

■ 事業利益：3,800億円（前回見通し比：+300億円）

	前回見通し	今回見通し	増減	上方修正した主な事業
エンジン	1,800億円	2,000億円	+200億円	・ GTCC
プラント・インフラ	400億円	500億円	+100億円	・ 各事業
航空・防衛・宇宙	800億円	1,000億円	+200億円	・ 防衛・宇宙
その他及び全社又は消去	△100億円	△300億円	△200億円	

■ 当期利益：2,400億円（前回見通し比：+100億円）

■ フリー・キャッシュ・フロー：0億円（前回見通し比：+1,000億円）

■ 配当金は、前回公表より変更なし

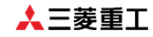
© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

18

このページには、24年度の業績見通しに関する要旨を記載しています。今回、受注高、売上収益、事業利益、当期利益、フリー・キャッシュ・フローを見直しておりますが、既に説明した内容と重複するため、説明は省略します。

以上をもちまして、私から決算および業績見通しの説明を終了します。

業績見通しサマリー

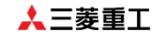


前回公表（2024年11月5日）から変更あり

(単位：億円)	2023年度 (利益率)	2024年度 (利益率)		2023年度比 増減 (利益率)	(増減率)
		前回見通し	今回見通し		
受注高	66,840	60,000	64,000	△2,840	(△4.2%)
売上収益	46,571	49,000	50,000	+3,428	(+7.4%)
事業利益	2,825 (6.1%)	3,500 (7.1%)	3,800 (7.6%)	+974 (+1.5 pts)	(+34.5%)
親会社の所有者に 帰属する当期利益	2,220 (4.8%)	2,300 (4.7%)	2,400 (4.8%)	+179 (±0.0 pts)	(+8.1%)
ROE	11.1%	10%	10%	△1.1 pts	
EBITDA	4,326 (9.3%)	5,000 (10.2%)	5,300 (10.6%)	+973 (+1.3 pts)	(+22.5%)
フリー・キャッシュ・フロー	2,001	△1,000	0	△2,001	
配当 ^(※1)	20円 中間8円/期末12円	22円 中間11円/期末11円	22円 中間11円/期末11円	前提為替レート： 1ドル = 150円、1ユーロ = 160円	

(※1) 配当（株式分割考慮後）は、2024年4月1日の株式分割（10分割）を踏まえ、2023年度に遡り調整（分割前配当×1/10）した金額を記載

業績見通し セグメント別内訳



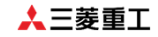
前回公表（2024年11月5日）から変更あり

	受注高				売上収益				事業利益			
	FY23 実績 ^(※1)	FY24見通し		FY23比 増減	FY23 実績 ^(※1)	FY24見通し		FY23比 増減	FY23 実績 ^(※1)	FY24見通し		FY23比 増減
		前回	今回			前回	今回			前回	今回	
(単位：億円)												
エネルギー	24,122	20,000	23,000	△1,122	17,236	17,500	18,000	+763	1,498	1,800	2,000	+501
プラント・インフラ	8,831	9,000	10,000	+1,168	8,332	8,000	8,000	△332	447	400	500	+53
物流・冷熱・ドライブシステム	13,186	13,500	13,500	+313	13,145	13,500	13,500	+354	728	600	600	△128
航空・防衛・宇宙	20,687	17,000	17,000	△3,687	7,915	9,500	10,000	+2,084	726	800	1,000	+273
その他及び 全社又は消去	12	500	500	+487	△58	500	500	+558	△575	△100	△300	+275
合計	66,840	60,000	64,000	△2,840	46,571	49,000	50,000	+3,428	2,825	3,500	3,800	+974

(※1) FY23実績は、2024年4月1日のGXセグメント新設の組織再編の影響を2023年度に遡り反映した金額を記載

4. 補足資料

補足資料 参考データ



大型ガスタービン 受注台数・契約残台数

	FY23-3Q	FY23通期	FY24-3Q
米州	1	7	11
アジア	8	9	4
EMEA	-	-	1
その他	1	1	-
受注台数 合計	10	17	16
契約残台数	32	36	40

民間航空機 出荷機数

777	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
FY23	7	11	7	5	30
FY24	6	6	2		14

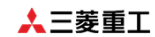
777X	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
FY23	0	1	3	2	6
FY24	3	3	1		7

787	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
FY23	9	7	13	14	43
FY24	9	12	12		33

【参考】中国の協業先企業における受注台数

	FY23-3Q	FY23通期	FY24-3Q
受注台数	16	21	7

補足資料 参考データ



受注残高

(単位：億円)	FY23-4Q ^(※1)	FY24-3Q
エンジン	42,311	49,782
プラント・インフラ	16,224	18,295
物流・冷熱・ドライブシステム	583	837
航空・防衛・宇宙	24,742	29,377
その他及び全社又は消去	144	210
合計	84,005	98,502

未確定外貨

(億通貨単位)	USD	EUR
未確定外貨（事業利益）	7	2
未確定外貨（金融収益費用）	8	2
前提為替レート	150.0	160.0

研究開発費、減価償却費、設備投資

(単位：億円)	FY23-3Q	FY24-3Q	FY24見通し
研究開発費	1,019	1,408	2,200
減価償却費	1,047	1,172	1,500
設備投資	1,443	1,283	1,800

販売費及び一般管理費

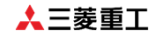
(単位：億円)	FY23-3Q	FY24-3Q
販管費	4,779	5,201

為替レート（売上計上平均レート）

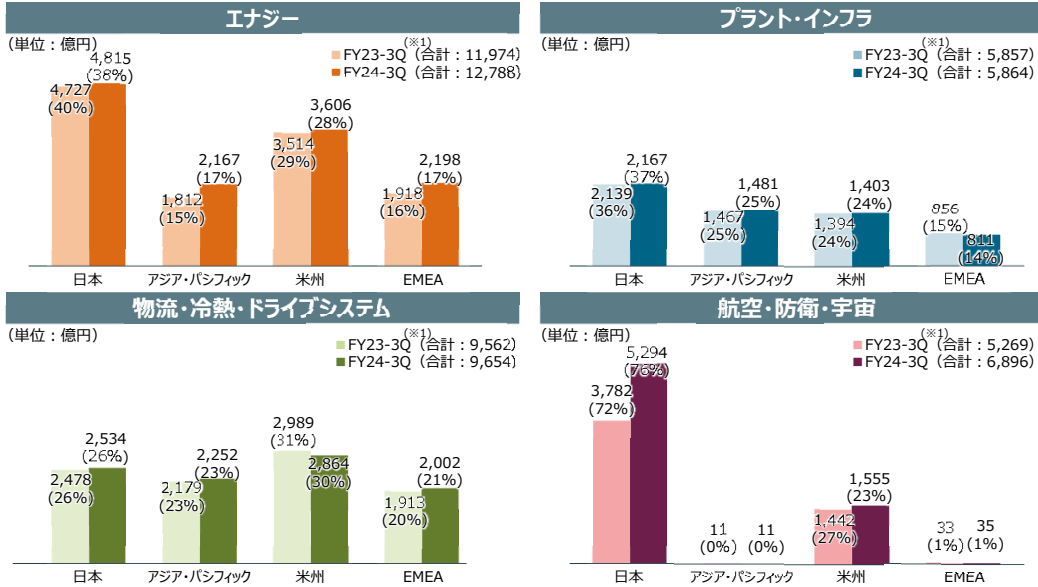
	FY23-3Q	FY24-3Q
USドル（円/USドル）	142.4	151.9
ユーロ（円/ユーロ）	152.9	163.8

(※1) FY23実績は、2024年4月1日のGXセグメント新設の組織再編の影響を2023年度に遡り反映した金額を記載

補足資料 参考データ



地域別売上高



(※1) FY23実績は、2024年4月1日のGXセグメント新設の組織再編の影響を2023年度に遡り反映した金額を記載

MOVE THE WORLD FORWARD MITSUBISHI
HEAVY
INDUSTRIES
GROUP

